

5. 生活歯髄切断法の制腐的術式

細矢由美子、○古澤 潤一、城臺 維子

有富 匡子、後藤 譲治

(長大・歯・小児歯)

乳歯並びに幼若永久歯に対する水酸化カルシウム製剤・カルビタールを用いた生活歯髄切断法の有効性は、すでに多くの研究により証明されている。本法を応用した場合の予後に及ぼす重要因子の1つとして、正しい制腐的処置があげられる。そこで長崎大学歯学部小児歯科診療室において実施しているカルビタールによる生活歯髄切断法の術式とポイントについて説明する。

我々の診療室では、各種歯科診療処置に対し、トレーシステムを採用している。生活歯髄切断に際して必要なトレーセットは、歯科治療基本セット、ラバーダムセット、乾熱滅菌器、滅菌ハンドピースヘッド及び滅菌電気エンジン用コントラセット、滅菌ガラス練板及び滅菌スパチュラセット並びに滅菌シリンジ、滅菌裏装用探針、滅菌バー及び滅菌綿球セットである。これらは、すべての歯内療法処置を制腐的に行う上で欠く事ができない。

歯髄切断面の洗滌及び清掃消毒には、10%次亜塩素酸ナトリウム溶液（ネオクリナー）、1.5%過酸化水素水溶液（オキシドール）及び 0.02 アクリノール溶液を用い、ネオクリナーとオキシドールは、5 ccの滅菌シリンジ、アクリノールは20ccの滅菌シリンジにて使用している。

切断糊剤としては、水酸化カルシウム製剤カルビタールを用い、裏装は、酸化亜鉛ユーージノールセメント（ネオダイン）及びリン酸亜鉛セメント（ネオセメント）による2重裏装を施す。

さらに、治療に際しては、不潔域と滅菌域とを厳重に区別し、バキュームチップの位置にも十分注意を払う。術者及び介補者は、術前並びに術中の要所で、正しい手洗いをを行う。器具、器材の取り扱い、滅菌鉗子及び滅菌ピンセットを使用し、素手で滅菌済みの器具、器材に触れないようにする。